



- 舞台平面図
- ①鏡の間
 - ②揚幕
 - ③橋掛り
 - ④三の松
 - ⑤二の松
 - ⑥一の松
 - ⑦後座
 - ⑧鏡板
 - ⑨切戸口
 - ⑩階(きざし)
 - ⑪地謡座
 - ⑫シテ柱
 - ⑬笛柱
 - ⑭ワキ柱
 - ⑮目付柱
 - ⑯白州

能楽堂とは
能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間(約6m)四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。

この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物が客席にならっていたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋、客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。

昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。

【チケット料金】(税込) 全席指定

S席・・・8,800円 ◆B席・・・5,500円
◆A席・・・6,600円 ◆C席・・・4,400円

【チケット取り扱い】5月8日(金) 午前10時より

- ◆電話 (有人対応 休業日を除く 10時~15時)
チケットペース▶03-3234-9999
- ◆インターネット
e+イープラス▶<https://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
*販売は上記に限り承ります。

〈学生割引〉2,000円・キャッシュバック
当日会場にて、26歳以下の学生の方へ2,000円をキャッシュバック致します。

- 当日、上記が確認できる証明書等をご持参下さい。受付は、会場入口付近となります。
- キャッシュバックは、チケットをご購入の上、当日会場に来られた方に限ります。
- 証明書等をお持ちにならなかった方へは、キャッシュバックは致しません。



【お願い】

- *上演中の撮影、録音、録画は固くお断り致します。
- *上演中はアラーム及び携帯電話の電源をお切り下さい。
- *本公演は未就学児の入場をご遠慮頂いております。
- *出演者はやむを得ぬ事情により変更させて頂く場合がございます。
- *舞台進行が常と異なる場合があります。
- *開場前のご来館につきましては能楽堂館外にてお待ちしております。

◆公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承ください。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <https://www.nohgaku.or.jp/>

ユネスコによる人類の無形文化遺産(能楽)

能多流「鱗形」
春川 靖昭

能多流「鱗形」
春川 靖昭

第四十八回

納涼能

公益社団法人能楽協会普及公演(東京支部)

観世能楽堂

観世流「合浦」(拍子之伝)
観世鉞之丞

令和8年7月17日(金)

開場/午後1時 開演/午後2時

会場 観世能楽堂

主催/公益社団法人能楽協会 東京支部

観世能楽堂

観世流「合浦」(拍子之伝)
観世鉞之丞

観世文化振興基金助成事業

ごあいさつ

納涼能は本年で第四十八回を迎えました。

これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。能楽師によるミニ講座から始まり、喜多流の能「鱗形」、和泉流の狂言「岩橋」、仕舞は三番共に親子共演、観世流の能「合浦一拍子之伝」と、各流儀に伝わる稀曲を選曲し、見どころ満載になっております。

お暑い時期ではございますが、能楽に親しむ良い機会かと存じます。

万障お繰り合わせの上、ご来場賜りますようお願い申し上げます。

東京支部長 朝倉 俊樹

番組

(開演 午後二時)

三三講座

内田 成信(シテ方 喜多流)
谷本 健吾(シテ方 観世流)

能(喜多流)

後シテ(弁財天) 香川 靖嗣
前シテ(女)

鱗形

ワキ(北条時政) 館田 善博
ワキツレ(従者) 野口 能弘
ワキツレ(従者) 野口 琢弘
アイ(末柱の神) 大藏 教義

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 曾和 正博
大鼓 桜井 均
小鼓 曾和 正博
笛 栗林 祐輔

佐藤 寛泰 内田 成信
友枝 真也 狩野 了一
大島 輝久 長島 茂
塩津 圭介 金子敬一郎

後見 中村 邦生
佐々木多門

地謡 佐藤 寛泰
大島 輝久
塩津 圭介

休憩 二十分

(三時三十分頃)

狂言(和泉流)

岩

橋(シテ(夫) 野村 万蔵)

アド(仲人) 野村 万之丞
アド(妻) 野村 拳之介

後見 石井 康太

仕舞(宝生流)

橋弁慶

宝生 和英
實生 知永

地謡 和久莊太郎
山内 崇生
小倉健太郎
辰巳 和磨

仕舞(金春流)

小袖曾我

金春 憲和
金春 重芳

地謡 山井 綱雄
高橋 忍
辻井 八郎
本田 芳樹

仕舞(金剛流)

土蜘蛛

金剛 龍謹
金剛謹一朗

地謡 田村 修
豊嶋 晃嗣
種田 道一
坂本立津朗

休憩 十五分

(四時二十五分頃)

能(観世流)

前シテ(童子) 観世鏡之丞
後シテ(殺人)

合浦

ワキ(里人) 福王 和幸
一拍子之伝

アイ(漁師) 山本 則重
アイ(鯛ノ精甲) 山本 則秀
アイ(鯛ノ精乙) 山本泰太郎
アイ(鯛ノ精丙) 山本凛太郎

大鼓 佃 良勝
小鼓 観世新九郎
大鼓 小寺真佐人
小鼓 一噌 隆之

後見 清水 寛二
観世 淳夫

地謡 川口 晃平 八田 達弥
坂井 音晴 中島志津夫
桑田 貴志 武田 志房
馬野 正基 松木 千俊

附 祝 言

(終了予定 五時十分)

能 鱗形

北条時政(ワキ)は、武士の家でありながら未だ紋が定まっていなことを嘆き、長年信仰している江の島の弁財天にこの事を祈願するため参詣します。すると一人の女性(前シテ)が現れ、時政を呼び止めてこの島の神であることを告げ、願いを叶えるので夜を待てと言いつつそのまま社殿の奥へと消えていきます。(中入)

やがて夜になると社殿の内は光に満ち溢れ、その中から弁財天(後シテ)が姿を現します。そして時政に守りの印として三鱗の旗を授け、神楽を奏し、この旗を掲げたならば、たとえ四方から敵が攻め寄せようとも、必ず神通力をもって救つてやろうと告げて社殿の扉を開き、再び奥へ消えていきます。

狂言 岩橋

結婚して十日経つのに妻が被衣を脱がず顔を見せないため、夫は仲人に相談します。仲人は「葛城岩橋」の和歌を詠めば妻の恥じらいが解けると教え、夫が覚えられないので仮名で紙に書いて渡します。

帰宅後、夫は紙を見ながらたどたどしく歌を詠むが妻は動きません。業を煮やした夫は力づくで被衣を剥こうとします。

仕舞 橋弁慶

武藏坊弁慶が五条の橋で人斬りをする牛若丸を退治しようと思いますが、軽やかな身ごなしに敗北します。弁慶は牛若の力量に感服し、主従の契りを結びます。

仕舞は、後半の弁慶と牛若丸の戦いの部分を長刀・太刀・水衣を使って舞います。

仕舞 小袖曾我

曾我十郎、五郎の兄弟は、富士の裾野での巻狩りで父の敵討ちを計画します。勘当されていた五郎と母の間を取り持った兄十郎の計らいで勘当も解け、酒宴を開き、舞を舞って狩場に出発します。

仕舞は終曲部の名残惜しい母との別れ、そして巻狩りへの出立の場面を二人の相舞で演じます。

仕舞 土蜘蛛

頼光やその家来たちによる怪物退治物の一つで、シテが蜘蛛の糸を投げかけるところに、他の能には例をみない美しさがあります。

仕舞では病床にある頼光のところへ、蜘蛛の精が僧形の者で現れ、頼光が太刀を抜いて斬りかかるところが演じられます。

能 合浦

唐の国、合浦の浦の漁師(アイ)が珍しい魚を釣りました。これを食べた里人(ワキ)は不機に思ひ、魚を買取り海に放します。夜に買い取りの童子(前シテ)が現れ里人のもとを訪ねます。里人が招きますが、到底人間とは見えないと名を問います。童子は殺人という魚の精だと名乗り、先程命を助けられた恩返しに、自らの泣く涙が宝珠となったものを捧げようと言いつつ、浦の波に消えます。

合浦の波が立ち騒ぎ殺人の精が現れ、里人に寿命長遠、息災延命の真如の宝珠を捧げて再び海中に姿を消しました。